



地域研究集会

第 52 回北洋研究シンポジウム
北海道太平洋・日本海系群スケトウダラの加入変動に関わる要因の解明

日 時：2023 年 9 月 22 日（金）10:00–16:30

会 場：函館市弁天町 20 番 5 号 函館市国際水産・海洋総合研究センター（オンライン ハイブリッド開催）

コンピーナー：山村織生・高津哲也（北大院水）・境 磨・濱津友紀（水産機構資源研）

共 催：北海道大学 大学院水産科学研究院

参加登録：<https://forms.gle/yM129nPGjVwpWDyR7>

問合せ先：yamamura@fish.hokudai.ac.jp

挨拶：木村伸吾（一般社団法人水産海洋学会会長）

10:00-10:10

趣旨説明：山村織生（北大院水）

10:10-10:20

座長：高津哲也（北大院水）

1. 北海道周辺スケトウダラ資源動向概況

10:20-10:50

境 磨（水産機構資源研）

2. 近年のスケトウダラ日本海北部系群の加入量の経年変動とその要因

10:50-11:20

中野渡 拓也・黒田 寛・葛西広海（水産機構資源研）・堀本高矩・佐藤政俊（稚内水試）

3. スケトウダラ太平洋系群の卵仔魚調査から見えてくること

11:20-11:50

濱津友紀（水産機構資源研）

昼 休 み

11:50-13:00

座長：境 磨（水産機構資源研）

4. スケトウダラ太平洋系群における産卵親魚の分布と生息環境

13:00-13:30

高橋昂大・渡野邊雅道（道栽水試）・武藤卓志（函館水試）・本間隆之（釧路水試）

5. スケトウダラ太平洋系群の産卵前経験水温と再生産成功率の関係

13:30-13:50

高津哲也（北大院水）

6. スケトウダラ日本海北部系群の産卵親魚と仔魚の分布特性

13:50-14:30

堀本高矩・佐藤政俊（稚内水試）・渡野邊 雅道（道栽水試）

座長：濱津友紀（水産機構資源研）

7. スケトウダラ太平洋系群における卵から前屈曲期仔魚にかけた母親効果の継続性の検討

14:30-15:00

金谷 彩友美（水産機構資源研）

休 憩

15:00-15:20

8. スケトウダラ太平洋・日本海北部系群の初期成長と年級群豊度

15:20-16:00

千村昌之（水産機構資源研）

9. スケトウダラ太平洋系群幼魚の被食減耗

16:00-16:30

山村織生・西尾燦吾（北大水院）・境 磨（水産機構資源研）

【総合討論】

座長：山村織生（北大院水）

10. 北海道周辺スケトウダラを対象に今後どのような調査研究が必要か

16:30-17:00

開催趣旨：

北海道周辺のスケトウダラのうち、太平洋系群と日本海北部系群は漁獲対象としての重要性が特に高く、調査研究の蓄積も大きい。両系群の主分布域はそれぞれ親潮と対馬暖流の影響を受け、気候変動に対して対照的な動向を示

してきた。即ち、比較的温暖であった 1990 年代に太平洋系群で比較的高い加入量が続いたのに対し、日本海北部系群では同時期に劇的な加入低下がみられ、その後も低迷が近年まで続いた。直近年の日本海北部系群には加入回復の兆しがみられるが、その背景となる産卵場形成と輸送機構に関する理解はまだまだ不十分である。太平洋系群では従来「早期発生群の生残が高加入につながる」と考えられてきたが、それに加えて雌親魚の産卵前の経験水温や、水温や餌豊度によって変動する仔稚魚や幼魚の成長速度も大きく影響することが明らかとなりつつある。当シンポジウムではこうした知見の整理をおこない、両系群の加入変動における鍵となる要因を年代別に明らかにすると共に、最近の加入量変動の要因解明に必要な調査研究項目の抽出を目的とする。